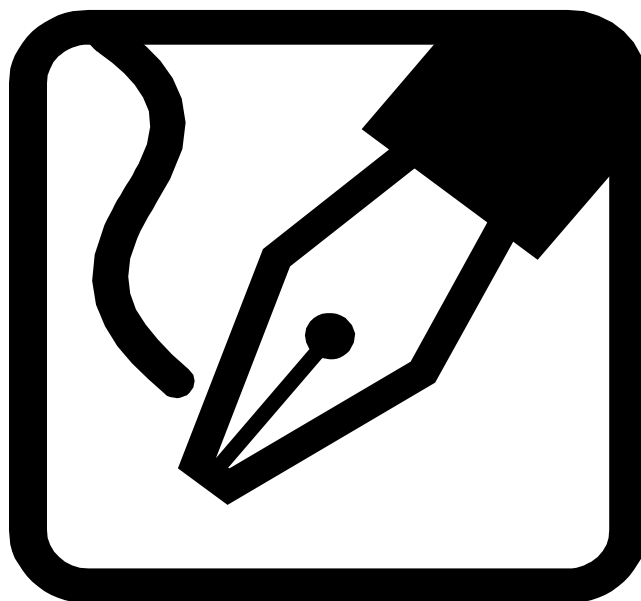


# 研究論文の書き方について

ver. 2017

教育研究班



千葉市教育センター

# 研究論文の記述について

## (1) 論文のプロット

項目		チェック事項
	研究主題	<ul style="list-style-type: none"> <li>副題をつける場合は、— ○○○○ — 研究主題をより、具現化したもの</li> </ul>
	研究概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究概要は、リード文として200~400字を目安に、コンパクトにまとめる。</li> <li>全内容を見なくてもわかる要約文であること。新聞のリード文を参考に！</li> </ul>
1	問題の所在	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような問題が起こっているのかを指摘するために、それに対して現状はこうである、と実証的に記述することによって問題点を明らかにする。</li> </ul> <p>※論文で一番重要視するところで研究の価値を量るところである。なぜ、この研究をする必要があるのか、まで問われる。</p>
2	研究の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記、問題解明のための課題を設定したというような目的を書き、具体的なゴールを記述する。</li> <li>文末を「～ために、この研究を行うものである。」「～を提言することを目的とする。」など、文末表現は、～示す、～作る、～明らかにするなどして、研究の目的を明確にする。</li> </ul>
	研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題解明のための手立て、方法を記述する。そのための計画を書く。目的の中に入れても良い。</li> </ul>
3	研究内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究内容がわかりやすく示されているか、図表、グラフの使い方はどうかなど、研究の特性に応じて、表現を工夫する。課題に対応して研究内容を記述する。</li> <li>研究の特性によって、この箇所は自由なプロットになる。</li> </ul>
4	研究のまとめ 成果と課題 (モデル・プランの提言・提示)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の成果を記述する。研究の特性によって、例えば「モデル・プラン」を研究のまとめとして提示・提言する場合もある。足りないところは「次年度へ向けて」など課題を記述する。</li> <li>問題の所在と目的と内容、そして研究のまとめが一本のライン上にあるか、その整合性を図る。</li> <li>実践の羅列ではここは書けない。研究としての価値、言い換えれば、わずかでもいいから今までにない「新しい提言」がなければ真の研究ではない。</li> </ul>
	引用・参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>本来的には、正式記述が重要であるが、紙幅の関係上、省略版とする。</li> <li>著者、書名、出典場所、出版社、出版年 [例] 河村茂雄『教師力(上)』誠信書房2008 ⇒単行本の場合 佐藤修司「教師力の向上」『教職研修9月号』2006 ⇒雑誌の場合</li> </ul> <p>なお、上記の省略版に対し、Web上に掲載する場合や、冊子にまとめる等、紙幅に余裕がある場合は、正式引用参考文献を使用する。正式な型は、学会等によって、多少異なるが、本センターとして、次のようなオーソドックスなものを採用する。</p> <p><b>【引用の場合】</b> 論文自体の引用した箇所に「 」で括り、<sup>2)</sup>(フォント上付き)と指定し、論文最終箇所に記述する。</p> <p>[例] 2) 牧昌見『20代教師の自己啓発・研修』ぎょうせい1990. p126 (参考の場合は、「 」指定がなくても良い)</p>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>キーワードの選択は慎重に(3~4個を目安に、主題、概要から選択する)</li> </ul>

## (2) 「仮説生成型研究」について

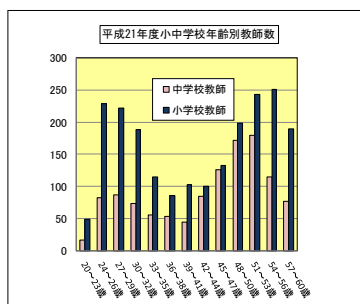
研究にはいろいろなタイプ、スタイルがある。研究の流れから考えると、仮説生成型研究と仮説検証型研究の2種類が挙げられる。前者は、経験を経てから仮説を立て、検証・確認し、結果から妥当な推論を導くことによって可能となり、後者は、仮説を立て、経験を通して検証・確認し、得られた結果に妥当な推論を加えることによって可能となる。

複雑で多様な要因が絡み合っている「教育」という場の特性から考えると、「仮説検証型」のように少数の要因に絞って考えるのは難しい。単一の因果関係で説明するには無理があるからである。したがって仮説検証型では、仮説がはずれて困らないように、具体性に欠け無理やり立てる仮説となるため、仮説が仮説として成立しない場合が多々ある。

このような論文上の問題点を鑑み、本センターでは上記のプロット「仮説生成型研究」を採用する。

## (3) 論文執筆時の留意点

- ①自分の主張が相手（読み手）に「共感」できるように心がける。
- ②問題の所在⇒目的と方法⇒研究の内容⇒まとめ、にブレがなく一貫している。
- ③論文にストーリー性がある。
- ④感覚的な表現や独りよがりの思いではなく、実証的である。例えば花を描写するとき、「美しいピンク色に染まって」の「美しい」はこの筆者の主観にすぎない。事実と論理で文章を組み立てる。
- ⑤主語・述語を明確にした短い文にする。
- ⑥事実と意見、主張を分ける。
- ⑦不要な説明や資料、繰り返しがいいか確認する。
- ⑧上記の表記を参考に、用語の統一（児童、子供たち）（自主的、自発的、主体的）を図る。
- ⑨図表の示し方（タイトル⇒図は下・表は上）



【図1】平成21年度千葉県小中学校年齢別教師数

【表2】理想とする教師のタイプや特徴(%)

	小学生	中学生	保護者（参考）
1位	頼りになる (95.7)	授業がうまい(92.7)	頼りになる (96.9)
2位	授業がうまい(95.7)	気軽に会話できる (92.1)	落ち着いている (95.6)
3位	気軽に会話できる (95.1)	他の先生から信用 (91.3)	授業がうまい (95.5)
4位	笑顔が多い(94.1)	話がうまい(90.7)	チャレンジ精神 (94.7)

⑩図でも表でもないもの（例えば、子供の作品）は[資料]で扱う。



[資料1]子供の作品

- ⑪本文中で「図表」を掲載したら、必ず「 [図4]が示すように 」と記述し、図表の説明をする。ページが大きくとぶ場合：「[図4]（p.20）参照」とページをカッコ付きで示す。
- ⑫写真を貼付する場合も同様に、文中で説明する。1段組みサイズが望ましい。写真はキャプション（写真の説明文・タイトル）を付け、資料扱いとする。なお、最終提出段階において、子供の顔が明確に判明できる場合やその作品掲載は、その保護者の書面による承諾を必ず受ける。
- ⑬数値の記述で、グラフ中のデータを示しながら説明する場合、グラフ中に（18.8%）と表示されているならば、文中でも、（18.8%）と一致する数値で表す。だが、文章の流れの中において、グラフを直接用いず（示さず）に全体の傾向を述べる場合には、「約〇割」、「約20%」のような使い方をしても良い。ただし、明らかに多い場合（約8割、約9割、9割以上、等）と、明らかに少ない場合（約1割、約2割、1割以下、等）に限る。なるべく「割」の使用は控える。
- ⑭質問紙法は処理しやすい。統計的に妥当であるが、個別の子供を分析しているかという点極めて曖昧である。質問紙法ではなく、インタビューや「振り返りカード」等の言葉を積極的に利用すると子どもの変容等が具体的に理解しやすくなる。数字は客観性がある。多くの人はこんな風に思っている、というときは平均値で良い。ただ、個人を追う場合はふさわしくない。
- ⑮質的データ分析は、子供の声を記録し、その変容を丹念に追究していくと良い。この場合、子供の声の共通性に着目し分類すると、量的分析にもなる。

# <書き方例（教育センター研究紀要の場合）>

1 教師力に関する研究

10.5pt MS ゴシック

## 教師力に関する研究 —授業の達人から学ぶ—

14pt MS ゴシック

11pt MS ゴシック

### 《研究の概要》

10.5pt MS ゴシック

本研究は、教師力を解明するために、優れた授業を行う人たちの行動特性に着目した。そこで、全国より29名の「授業の達人」を選びヒアリングを行った。その結果、教師に会得させたい（2本線）のコンピテンシーが明らかになった。

2本線

### 1 問題の所在

ジャン・ロジャール（1712-1778）が、未完の著作「エミール」の成長を通して教師力を説いたのが1762年。今から約250年前、教師力という言葉がにわかにならば登場したのは、2003年頃。朝日新聞で連載された「教師力」は、読売新聞でも、現在でも、24字の2段組み（間隔2文字）字間標準 行間標準 38行を越える教師力という言葉が、依然として教師力という言葉に翳りは見えない。このことから、現在の教育界において教師力の注目度は高いと言えよう。

10.5pt MS ゴシック 数字のあと1字空き

24字の2段組み（間隔2文字）  
字間標準 行間標準 38行

のことである。

教師に求められる資質・能力とは何か。いつの時代にも問われ続けてきた古くて、そして新しい課題である。戦後の「教育ルネサンス」で連載された「教師力」が影響しているものと考えられる。曖昧でありつつも、日本では、この曖昧な概念を好む傾向があるのであろう。

(1)等の括弧及び括弧内の数字は半角

### 2 研究の目的と方法

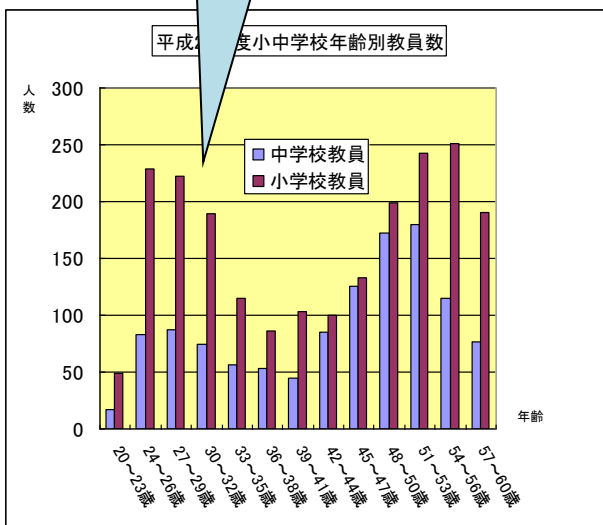
10.5pt MS ゴシック  
2 (1)①まで

#### (1)教師力にかかわる歴史

##### ①昭和の教育

教師力という言葉が登場する時期と前後して、「〇〇力」という言葉が目につくようになった。人間力、社長力、仕事力…。「〇〇力」という言葉は世間に氾濫し、現在もその流行は継続している。これは、どのような言葉にも「力」

グラフは色が識別できるように



【図1】平成21年度千葉県小中学校年齢別職員数

問題の所在で指摘した1点目の「なぜ、今、教師力が注目されるか」という点について、文献を紐解くと、冒頭で述べたように、いつの時代にも求められる教員の資質・能力として、これまでも常に問われ続けてきた課題であることがわかる。それほど、教師に求められる資質・能力をめぐるテーマは重要なのである。だから、そのテーマをめぐって、は懲りもせず、また、追いついていくのである（〔表2〕）。わが国において、教職のあり方を強く規定し、方向付けた最初のもは、明治6年に師範学校が創設された「小学教師心得」とされている。〔凡教師タル者ハ学文算筆ヲ教フルニシテ其ノ教訓ヲ助ケテ飲食起居ニ至ル迄心ヲ用イテ教導スベシ故ニ其ノ徒ヲ中学術進歩セズキハ平口不仁也〕。徒アラハ教師と。

1桁は全角、2桁以上は半角で

句点は最後に！

9pt MS ゴシック 図は下 表は上  
【図4】〔表2〕表題を中央に表記

【表1】理想とする教師のタイプや特徴（調査期間2007年12月～2008年1月）

(%)

	小学生	中学生	保護者（参考）
1位	頼りになる（95.7）	授業がうまい（92.7）	頼りになる（96.9）
2位	授業がうまい（95.7）	気軽に会話できる（92.1）	落ち着いている（95.6）
3位	気軽に会話できる（95.1）	他の先生から信用（91.3）	授業がうまい（95.5）
4位	笑顔が多い（94.1）	話がうまい（90.7）	チャレンジ精神（94.7）
5位	他の先生から信用（93.7）	頼りになる（89.2）	気軽に会話できる（94.6）

資料の文字は9ptが見やすい。MS明朝

4 研究のまとめ 10.5pt MSゴシック

したがって一律に一面的な教師像を語ることにさほど意味がない。子供一人一人に個性があるように、学校にも多くの個性ある教師が存在してよく、様々な価値態度を有して良い。その全体としての存在があればいい。

現代の学校教育の課題は極めて複雑であり、教師の仕事の幅や奥行きが広がっている。これらの課題への

対応は、教師個人には限界があり、状況や課題に応じて、先輩や同僚とのチームとしての補完し合うことによって充足されるべきであろう。これからの学校は、松平信久が述べるように、経験や考え方、技能や特技などの異なる多様なスタッフによって構成され、それを互いに認め合って生かし合い、学校総体としての教育力を高める方向性を目指すことが不可欠である。

2本線

【研究組織】

- 通年講師 千葉大学教育学部 教授 伏見 陽元
- 研究協力員 千葉市立小中台中学校 教諭 佐藤 素子 千葉市立海浜打瀬小学校
- 所内担当 教育研究班 青木 一（担当） 塚原 久江 神尾 祝子 長瀬 秀二

研究組織；9pt MS明朝  
行間は操作可  
責任者を（担当）とし、筆頭に表記  
以下、班員の名前を表記

【主な引用／参考文献等】

- ・天笠茂「これからの教員に求められる資質・能力」『中等教育資料8月号』2005
- ・上杉賢士「大学・大学院における教員養成推進プログラム」千葉大学教育学部2009
- ・佐藤学『教師花伝書』小学館2009
- ・寺崎昌男『達人の授業』東京書籍1993
- ・多田孝志『共に創る対話力』教育出版2009
- ・藤森裕治『国語科授業研究の深層—予測不可能事象と授業システム—』東洋館出版社2009

主な引用参考文献を5本ぐらい掲載。顕著な引用は本文中に名を入れる。  
著者名→「本名」→出版社→出版年 9pt MS明朝

千葉市教育センター 研究紀要第18号

- 研究名：教師力に関する研究
- 研究対象：小学校・中学校
- 研究領域：教育原理
- 分類番号：教師論B2-04
- 研究内容キーワード：教師力、コンピテンシー、授業の達人

分類は「教育関係図書分類基準」による。  
キーワードは3～5 9pt MS明朝